

病害虫発生予報

第3号(6月予報)

令和8年5月27日
岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
水稻	葉いもち	栽培地域全域	やや早	やや多
	ヒメビウンカ	岐阜・西濃、中濃地域の早植地帯	早	やや多
	縞葉枯病	岐阜・西濃、中濃地域の早植地帯	早	平年並
	ニカメイガ	栽培地域全域	平年並	やや少
かき	カキノヘタムシガ	栽培地域全域	平年並	やや多
	ハマキムシ類	栽培地域全域	やや早	多
なし	黒星病	栽培地域全域	やや早	多
	ナシヒメシンクイ	中濃地域	やや早	平年並
もも	せん孔細菌病	飛騨地域	早	少
	ナシヒメシンクイ	飛騨地域	早	平年並
果樹類	果樹カメムシ類	栽培地域全域	-	多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	早	やや少
	チャノホソガ	岐阜・西濃地域	やや早	少
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	平年並	やや多
野菜一般	アブラムシ類	栽培地域全域	-	平年並
アブラナ科野菜	コナガ	岐阜・西濃地域	-	やや少

※発生時期の-は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を順守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）
<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

- I 普通作物
- 1 水稻

葉いもち	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	栽培地域全域	やや早（6月第3半旬）	やや多

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
 - ア 5月下旬までの調査では、岐阜・西濃地域において、補植用置苗にいもち病の発生が認められた（+）。
 - イ 向こう1ヶ月（5/23～6/22）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は多い（+）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
 - ア 補植用置苗はただちに除去し、早期発見、早期防除に努める。
 - イ 今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意する。
 - ※ 病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

ヒメトビウンカ	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域 の早植地帯	早(5月第6半旬頃)	やや多

縞葉枯病	対象地域	発生時期＜初発生＞	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域 の早植地帯	早(6月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 小麦の成熟期は、岐阜・西濃地域で早く(+)、中濃地域で平年並と予想される(±)。
- イ ヒメトビウンカの小麦での発生量は岐阜・西濃地域ではやや少なく(-)、中濃地域では多かった(+)。
- ウ 前年のヒメトビウンカ保毒虫率は平均0.8%と、平年並みであった(±)。
- エ 縞葉枯病抵抗性を有するハツシモ岐阜SLへ切替えが行われた(-)。
- オ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 多発地帯では、抵抗性品種の作付けや、ウンカ類に効果が高い薬剤を選択するなどの対策を行う。
 - イ ヒメトビウンカの保毒虫率は近年低い、感受性品種については引き続き対策を行うことが必要である。
- ※ 病害虫図鑑「ヒメトビウンカと縞葉枯病について」もあわせて参考にしてください。

ニカメイガ	対象地域	発生最盛期＜越冬世代成虫＞	発生量
	栽培地域全域	平年並(6月第3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯及びフェロモントラップへの初飛来は、認められていない(-)。
- イ 前年の発生面積は岐阜・西濃、中濃、東濃地域では少なく(-)、飛騨地域では多かった(+)。
- ウ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア これから田植えをする場合は、本虫に効果のある箱施薬を行う。
- イ 地域により発生時期が異なり、局地的に多発することがあるので、今後の地区情報等に注意する。

II 果樹等作物

1 かき

カキノヘタムシガ	対象地域	発生最盛期＜第一世代幼虫＞	発生量
	栽培地域全域	平年並(5月第6半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 越冬世代成虫の初発生日は早く(+)、発生最盛期は平年並みであった(±)。
- イ 発蛾最盛期における発生量は、やや多かった(+)。
- ウ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 近年成虫の発生期間が長期化しているため、例年発生が多いほ場では、残効の長い薬剤を使用するか、2回防除を実施する。
- ※ 病害虫情報「カキノヘタムシガに注意(令和8年5月18日発表)」、病害虫図鑑「かき カキノヘタムシガについて」もあわせて参考にしてください。

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期＜第一世代成虫＞	発生量
	栽培地域全域	やや早(6月第4半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への越冬世代成虫初飛来は、チャノコカクモンハマキは岐阜・西濃地域でやや遅く(-)、中濃地域では早かった(+)。チャハマキは岐阜・西濃地域で未確認、中濃地域で早かった(+)。

- イ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで早く(+)、中濃地域のチャハマキで早かった(+)
- ウ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで多く(+)、中濃地域のチャハマキで多かった(+)
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生時期<果実発病最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早(6月第2~5半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア なしの開花期は、早かった(+)
- イ 5月下旬の調査では、発病葉率は岐阜・西濃地域、中濃地域でともに低いが(-)、発病果率はともに高かった(+)
- ウ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(-)、降水量は多い(+と)予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発病部位は、伝染源となるため早めに切り取り処分する。
※ 病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシクイ	対象地域	発生最盛期<第一世代成虫>	発生量
	中濃地域	やや早(6月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア なしの開花期は、早かった(+)
- イ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺最盛期は、早かった(+)
- ウ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺数は、平年並みであった(±)
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 第一世代成虫発生最盛期の7日後を目安に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「なし ナシヒメシクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

せん孔細菌病	対象地域	発生時期<発病拡大期>	発生量
	飛騨地域	早(6月第3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア ももの開花期は、早かった(+)
- イ 前年の発生面積は、少なかった(-)
- ウ 発病葉率、発病枝率ともに低かった(-)
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(+と)予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発病枝(春型枝病斑)や周辺の新梢葉などの発病部位は、伝染源となるため早めに除去し処分する。
- イ 本病は葉や果実の気孔等の自然開口部、風雨等による傷口から侵入するため、防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除を併せて行う。
- ウ 幼果は本病の感受性が高く、初期に感染すると落果の原因となるため、早めに袋かけを行い、感染防止に努める。
※病害虫図鑑「もも せん孔細菌病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生最盛期<第一世代成虫>	発生量
	飛騨地域	早(6月第4半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア ももの開花期は、早かった(+)。
- イ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺最盛期は、認められていない(-)。
- ウ フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺数は、少なかった(-)。
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

4 果樹類

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域、東濃地域、飛騨地域で多かった(+)
- イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、岐阜・西濃地域、中濃地域、東濃地域で多かった(+)
- ウ チャバネアオカメムシの越冬量は、平年並みであった(±)
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 気温、湿度が高く、風が弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
※ 病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生最盛期<第一世代幼虫>	発生量
	岐阜・西濃地域	早(5月第4半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 一番茶の摘採期は、平年並みであった(±)。
- イ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺最盛期は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに早かった(+)
- ウ 予察灯における越冬世代成虫誘殺数は、チャハマキでやや少なく(-)、チャノコカクモンハマキで少なかった(-)
- エ フェロモントラップにおける越冬世代成虫誘殺数は、チャハマキで平年並み(±)、チャノコカクモンハマキで少なかった(-)
- オ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫が葉をつづりあわせると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期~若齢幼虫期に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

チャノホソガ	対象地域	発生最盛期<第一世代成虫>	発生量
	岐阜・西濃地域	やや早(5月第6半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 一番茶の摘採期は、平年並みであった(±)。
- イ 予察灯、フェロモントラップでの越冬世代成虫誘殺数は、いずれも少なかった(-)。
- ウ 第一世代幼虫による巻葉数は、少なかった(-)。
- エ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「茶 チャノホソガについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生時期<初発生>	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	平年並(6月第5半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

ア 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(+と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果実や葉、枯死した花卉や葉先枯れ部はこまめに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アブラムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア 有翅虫の黄色水盤での誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域で早かった(+)

イ 有翅虫の黄色水盤での誘殺数は、岐阜・西濃地域、東濃地域、飛騨地域で少なく(-)、中濃地域で平年並であった(±)。

ウ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

イ ウイルス病を伝搬する恐れがあるので、初期防除に努める。

ウ 雑草地からの飛込み等があるので、防虫ネット等で侵入防止を図り、ほ場周辺の雑草管理を徹底する。

※ 病害虫図鑑「ナス アブラムシ類について」もあわせて参考にしてください。

3 アブラナ科野菜

コナガ	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	やや少

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数は、岐阜・西濃地域で少なかった(-)。

イ ほ場での発生量は、岐阜・西濃地域で少なかった(-)。

ウ 向こう1ヶ月(5/23~6/22)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は多い(-と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

イ 施設内における葉菜類の栽培では、発生消長に注意し適期に防除を実施する。

【各地域の病害虫発生調査結果および今後の予測】

※岐阜・西濃地域

作物名	病害虫名	5月発生量	6月発生予測	
			発生量	時期
水稲	葉いもち	—	やや多	やや早
	縞葉枯病	—	並	早
	ヒメトビウンカ	やや少	並	早
	ニカメイガ	少	やや少	—
かき	カキノヘタムシガ	やや多	やや多	並
	ハマキムシ類	やや多	やや多	やや早
なし 果樹共通	黒星病	やや多	やや多	—
	果樹カメムシ類	多	多	—
茶	ハマキムシ類	やや少	やや少	早
	チャノホソガ	少	少	早
野菜一般	アブラムシ類	少	やや少	—
アブラナ科野菜	コナガ	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稲

・葉いもち

5月下旬の調査で、一部地域の補植用置苗にいもち病の発生が認められました。補植用置苗は補植後ただちに除去し、早期発見、早期防除に努めてください。今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意し、防除の参考としてください。

●なし

・黒星病

5月に実施した調査において、本病の発病果率は0.8%（平年0.2%）と多く認められました。本病は、降水量が多くなると発生が助長されるため、今後の発生に注意してください。発病後の防除では効果が劣るため、予防防除に努めてください。なお、散布にあたっては同一系統の薬剤が連続しないようローテーション防除を実施してください。

●果樹共通

・果樹カメムシ類

岐阜市に設置したチャバネアオカメムシのフェロモントラップへの4月第1半旬から5月第4半旬までの累計誘殺数は121.9頭（平年67.4頭）と多く推移しています（図1）。今後、気温の上昇とともに断続的な園への飛来が予想されます。特に、風が弱く、夜温及び湿度が高い薄暮時（日没後1時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。

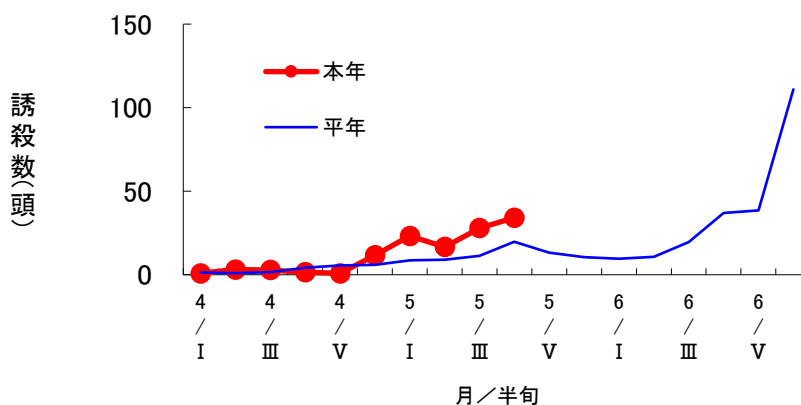


図1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（岐阜市則松）

※中濃地域

作物名	病害虫名	5月発生量	6月発生予測	
			発生量	時期
水稲	葉いもち	—	並	並
	縞葉枯病	—	やや多	並
	ヒメトビウンカ	多	多	並
	ニカメイガ	少	少	—
かき	ハマキムシ類	多	多	早
なし	黒星病	多	多	—
	ナシヒメシクイ	並	並	やや早
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多	—
トマト	灰色かび病	—	並	並
野菜	アブラムシ類	並	並	並

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稲

- ・ヒメトビウンカ・縞葉枯病

小麦ほ場でのすくい取り調査の結果、63.5頭（平年27.3頭）と多く認められました。本虫は小麦の収穫とともに水田へ侵入します。また、イネ縞葉枯ウイルスを媒介するため、長期残効性のある箱施薬を実施していない場合は、本田への第1世代成虫飛込み最盛期に本田防除を行ってください。

●かき

- ・ハマキムシ類

チャハマキのフェロモントラップへの5月第1から第4半旬までの累計誘殺数は、21頭（平年8.1頭）と多く認められています（図2）。ふ化幼虫が葉などをつづると、葉液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施してください。

●なし

- ・黒星病

5月下旬の調査では、発病果率は0.5%（平年0.3%）と多く認められました。葉や果実などで発病するとそこから二次感染を繰り返します。園内に発病葉や発病果を放置すると、風雨によって孢子が飛散し、被害が拡大するため、必ず園外へ持ち出し処分してください。

●果樹共通

- ・果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの4月第1半旬から5月第4半旬までの累計誘殺数は176頭（平年65.0頭）と多く認められています（図3）。発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●トマト

- ・灰色かび病

20℃前後の気温と90%以上の高湿度が続くと発病が多くなります。夏秋雨よけ栽培では、梅雨期頃より発生がみられるため、発生初期の防除を徹底してください。なお、薬剤防除にあたっては、耐性菌の発現を避けるため、系統の異なる薬剤でのローテーション防除を実施してください。

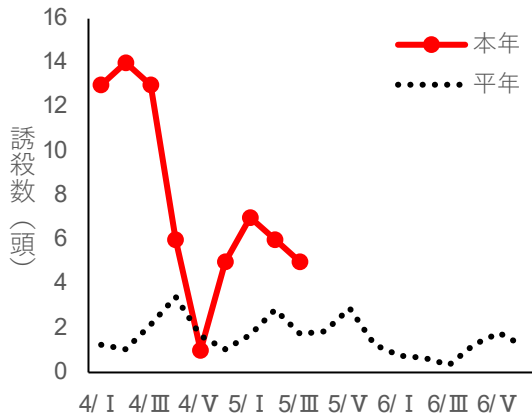


図2 P T*によるチャハマキ誘殺数の推移
(美濃加茂市)
*：フェロモントラップ

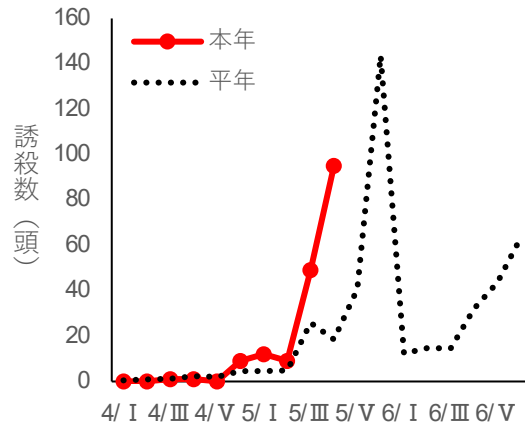


図3 P T*によるチャハネオカメムシ誘殺数の推移
(美濃加茂市)

※東濃地域

作物名	病害虫名	5月発生量	6月発生予測	
			発生量	時期
水稻	葉いもち	—	並	並
	ニカメイガ	—	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	多	多	—
トマト	灰色かび病	—	並	並
野菜	アブラムシ類	少	やや少	並

●果樹共通

・果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの予察灯への5月第1半旬から第4半旬までの累計誘殺数は199頭(平年139.6頭)と多く認められています(図4)。発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●トマト

・灰色かび病

20℃前後の気温と90%以上の高湿度が続くと発病が多くなります。夏秋雨よけ栽培では、梅雨期頃より発生がみられるため、発生初期の防除を徹底してください。なお、薬剤防除にあたっては、耐性菌の発現を避けるため、系統の異なる薬剤でのローテーション防除を実施してください。

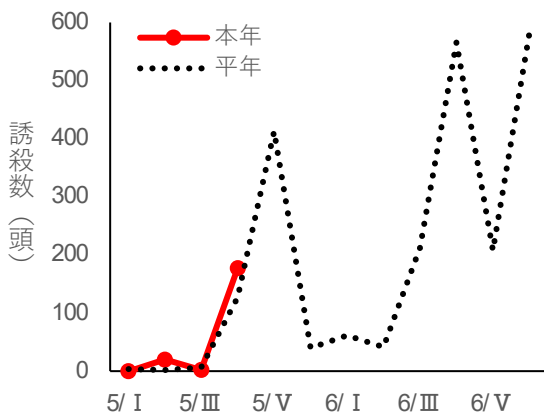


図4 予察灯によるチャハネオカメムシ誘殺数の推移
(中津川市)

※飛騨地域

作物名	病害虫名	5月発生量	6月発生予測	
			発生量	時期
水稻	葉いもち	並	やや多	やや早
	ニカメイガ	並	並	並
モモ	せん孔細菌病	少	少	早
	ナシヒメシンクイ	少	並	早
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	多	早
夏秋トマト	灰色かび病	並	やや多	やや早
野菜一般	アブラムシ類	並	やや多	やや早

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●果樹全般

・果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの予察灯（高山市国府町）への誘殺数は5月第1半旬から第3半旬累計で8頭（平年0頭）と多く認められました（図5）。また、すでにモモ園への飛来も認められています。今後、気温の上昇とともに断続的な園への飛来が予想されます。特に、風が弱く、温湿度が高い薄暮時（日没後1時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施しましょう。

●夏秋トマト

・灰色かび病

調査ほ場での発病株は見られませんが、天候を見ながら予防防除を行いましょ。本病は20℃前後で多湿条件が続くと発病しやすくなります。咲き終わった花卉や葉先枯れ等に感染し発病するため、これらを早急に除去するとともに、排水対策や換気、葉かき等でハウス内の風通しを良くし、多湿とならないよう注意しましょう。

●野菜一般

・アブラムシ類

黄色水盤（飛騨市古川町）への誘殺数は、5月第1半旬から第3半旬累計で14.4頭（平年値43頭）（図6）と少ないですが、一部多発しているほ場も見られます。高温乾燥が続くと多発する可能性が高くなりますので、シルバーマルチ等で飛来を抑制するとともに、必要に応じて防除を行いましょ。

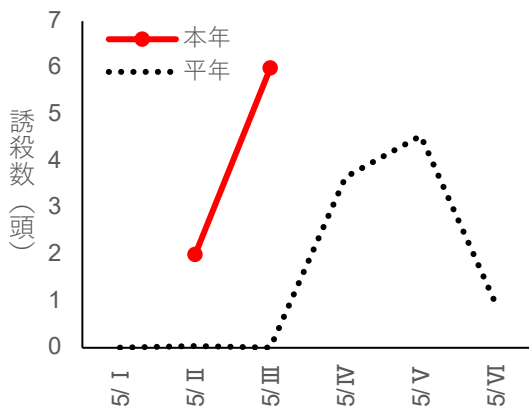


図5 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（高山市国府町）

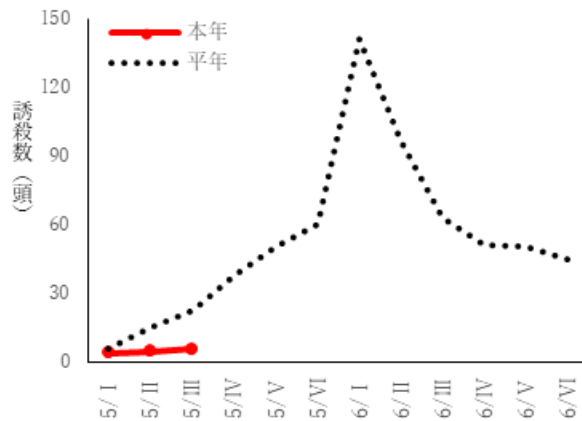


図6 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数の推移（飛騨市古川町）

[参考資料 2]

《用語の基準と使用法》

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 半旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 | 時期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早い 平年値より3～5日早い。
やや遅い 平年値より3～5日遅い。
早い 平年値より6日以上早い。
遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 | 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
多い 平年値より、その値が41%以上多い。
少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 | 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

[参考資料 3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）—名古屋地方気象台 令和8年5月21日発表—

《予想される向こう1カ月の天候（5月23日から6月22日）》

- ・ 温かい空気に覆われやすいため向こう1カ月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・ 向こう1カ月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

病虫害防除所ホームページに、病虫害発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病虫害の防除上の注意事項等については、「病虫害図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和8年度農薬危害防止運動の実施期間です。

農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。